

第 19 回インテリジェント・コスモス奨励賞受賞者代表挨拶

東北大学大学院薬学研究科臨床薬学分野 准教授 佐藤恵美子

第 19 回インテリジェント・コスモス奨励賞を受賞させていただきました東北大学大学院薬学研究科の佐藤恵美子です。はじめに新型コロナウイルス COVID-19 感染症でお亡くなりになられた方々、並びにご親族の皆様にご挨拶申し上げますとともに、被患された皆様にご心よりお見舞い申し上げます。

この度新型コロナウイルス COVID-19 感染症の拡大によるリスク軽減のため、授賞式等が中止になりましたが、受賞者を代表してご挨拶させていただきます。まず、このような機会をいただきました公益財団法人インテリジェント・コスモス学術振興財団理事長の沢田康次先生ならびに選考委員の諸先生方には、受賞者を代表して厚く御礼を申し上げます。

私の研究について紹介させていただきます。私は 15 年ほど前から慢性腎臓病 (Chronic kidney disease) に関する研究を行ってきました。CKD は、高血圧等のメタボリックシンドロームを原因として慢性進行性に腎機能が低下する病態であり、CKD の進行は心疾患・死亡率増加のリスク因子となっています。日本には CKD 患者が既に 1330 万人以上いると推定されていますが、宮城県は「メタボリックシンドローム該当者および予備群」の割合が全国ワースト 2 位となっており、CKD 発症リスクが高い人が多く存在しています。そのため、この状況を脱することが緊急の課題となっております。そこで私はこの問題を解決するための糸口として、CKD や CKD 合併症の予防法や治療法の開発に関する研究を行ってまいりました。これまでに CKD の発症リスクとなる高血圧の指標について宮城県のコホートを対象として調べ、この指標が若年者や健常者において血圧上昇と関連することを明らかにし、健康診断時のスクリーニングによる早期発見が重要であることを示してきました。

また近年では、CKD の合併症である筋萎縮 (サルコペニア) についての研究を行っております。日本社会の超高齢化に伴い、CKD 患者層も高齢化しています。CKD におけるサルコペニア合併は、寝たきり・骨折・死亡率増加の因子となるため、超高齢化社会における CKD 患者の管理においてサルコペニアは重要な課題となっています。私はこれまでに CKD におけるサルコペニアの発症に、尿毒素が強く関連していることを明らかにし、サルコペニアの発症機序について示してきました。現在は、この発症機序に基づいた予防・治療法の確立を目指しております。これらの研究は全て東北で行っており、東北発の CKD 予防から治療までを包括的にケアするロールモデルとなれるよう、これからも研究を進めていきたいと思っておりますので、今後ともご指導をいただけますと幸いです。

最後になりますが、新型コロナウイルス COVID-19 感染症が一刻も早く終息し、皆様が普段通りの生活に戻れることを心からお祈りしております。